



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。



タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-04 教育と社会	20130587036901	●教育と社会 Ⅱ(教育相 談)	和	E	谷口 弘 一	1年,2年,3年,4年	後期	木 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-04 教育と社会	20130587036902	●教育と社会 Ⅱ(教育相 談)	和	E	内野 成 美	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-04 教育と社会	20130587037301	●教育と社会 Ⅱ(文学と社 会)	和	E	堀井 健 一	1年,2年,3年,4年	前期	木 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-04 教育と社会	20130587037701	●教育と社会 Ⅱ(身のまわ りの科学)	和	E	長島 雅 裕	1年,2年,3年,4年	後期	金 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-04 教育と社会	20130587038101	●教育と社会 Ⅱ(芸術)	和	E	織田 芳 人	1年,2年,3年,4年	前期	金 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-04 教育と社会	20130587038501	●教育と社会 Ⅱ(環境と社 会)	和	E	星野 由 雅	1年,2年,3年,4年	後期	木 3	～





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-04 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587036901	科目番号	05870369
授業科目名	●教育と社会Ⅱ(教育相談)		
編集担当教員	谷口 弘一		
授業担当教員名(科目責任者)	谷口 弘一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	谷口 弘一		
科目分類	全学モジュールⅡ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	taniguti@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部215番研究室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	毎週金曜日15:00～16:00		
授業のねらい	カウンセリングとソーシャルサポートを有機的に結びつけ、効果的な援助を提供する方法について理解すること。		
授業方法（学習指導法）	講義・実習形式（視聴覚教材、心理尺度等の実習教材、プリントを適宜使用）		
授業到達目標	フォーマルなサポートであるカウンセリングとインフォーマルなサポートであるソーシャルサポートについて説明できる。学校・家庭場面において、効果的な援助が提供できるようになる。		
授業内容	授業内容（概要） 心理的な悩みや困難を抱えた人に対する援助には、カウンセラーなど専門家によるサポートと親密な他者など非専門家によるサポートの二つが存在する。本講義では、カウンセリングとソーシャルサポートの理論、学校・家庭場面におけるカウンセリングとサポートの実践、カウンセリングとサポートの効果を抑制する要因などについて解説する。		
	回	内容	
	1	10月4日 オリエンテーション	
	2	10月11日 カウンセリングとソーシャルサポート：地域実践心理学の観点から	
	3	10月18日 ソーシャルサポートとは何か(1)：背景・歴史	
	4	10月25日 ソーシャルサポートとは何か(2)：概念的定義・測定・効果	
	5	11月1日 ソーシャルサポートと発達(1)：量・効果・互恵性	
	6	11月8日 ソーシャルサポートと発達(2)：規定因・臨床教育的介入	
	7	11月15日 サポート関係の構築(1)：対人スキルズトレーニング実習(1)	
	8	11月29日 サポート関係の構築(2)：対人スキルズトレーニング実習(2)	

	9	12月6日 サポート関係の構築(3)：対人関係に関連した心理尺度の実施・解釈・討論
	10	12月13日 家族からのソーシャルサポート
	11	12月20日 教師からのソーシャルサポート(1)：学校におけるサポート
	12	12月27日 教師からのソーシャルサポート(2)：援助不安・被援助志向性
	13	1月10日 人はなぜカウンセリングを受けたがらないか(1)
	14	1月23日 人はなぜカウンセリングを受けたがらないか(2)
	15	1月24日 まとめ
	16	1月31日 定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	カウンセリングとソーシャルサポートーつながり支えあう心理学ー ナカニシヤ出版	
成績評価の方法・基準等	期末試験50％ 討論・実習への貢献25％ 課題レポート25％ この他に、授業で募集する実験や調査などへの参加による学習、もしくはそれに替わる課題なども評価に加味する。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-04 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587036902	科目番号	05870369
授業科目名	●教育と社会II(教育相談)		
編集担当教員	内野 成美		
授業担当教員名(科目責任者)	内野 成美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	内野 成美		
科目分類	全学モジュールII科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）	2 年		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	教育学部		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業の前後に講義室で受付ける		
授業のねらい			
授業方法（学習指導法）			
授業到達目標	一人ひとりの児童生徒の人格形成および教育指導上の問題について、教育の場を中心に相談をおこない、本人やその親に問題解決のための援助・助言・指導・治療を行うことができる能力を身につける。		
授業内容	第1回 教育相談の意義について学ぶ 第2回 教育相談と生徒指導の領域について学ぶ 第3回 児童生徒理解の領域について学ぶ 第4回 児童生徒理解の方法について学ぶ 第5回 カウンセリングの基本技法について学ぶ 第6回 カウンセリングの基本技法を体験する 第7回 不登校児童生徒への理解について学ぶ 第8回 不登校児童生徒への対応について学ぶ 第9回 発達障害の児童生徒への理解について学ぶ 第10回 発達障害の児童生徒への対応について学ぶ 第11回 いじめ問題について学ぶ 第12回 学級崩壊の問題について学ぶ 第13回 危機介入について学ぶ 第14回 学級集団への援助の方法について学ぶ 第15回 学級集団への援助の方法を体験する 第16回 授業の総括（まとめ、試験を含む）		
キーワード	教育相談・生徒理解・支援の段階・カウンセリング		
教科書・教材・参考書	参考書： 教育相談の理論と実際 河村茂雄 著 図書文化		

成績評価の方法・基準等	定期試験（４０％） レポート（４０％） 授業への参加度・貢献度（２０％） 合計６０％以上を合格とする。
受講要件（履修条件）	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	教育相談の意義、生徒指導者としての役割、教育相談の過程、児童生徒理解の領域、児童生徒理解の方法、教育相談者としての留意点、カウンセリングの方法などの知識や理解を深め、相談技法を身につける。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	受講要件(履修条件)：心理学に興味・関心のある学生を求める。





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-04 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587037301	科目番号	05870373
授業科目名	●教育と社会II(文学と社会)		
編集担当教員	堀井 健一		
授業担当教員名(科目責任者)	堀井 健一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀井 健一		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）	「教育と社会」2年生		
担当教員Eメールアドレス	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員研究室	教育学部本館6階611番研究室		
担当教員TEL	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員オフィスアワー	火曜日午後		
授業のねらい	主題は西洋の古代ギリシアの歴史です。教養としての古代ギリシアの社会についての知識を学びます。外国の歴史を学ぶのは外国語文献を読むことから始まりますから、皆さんには英語の絵本のようなものを翻訳してもらいます。その作業によって「知ること」に対する態度を養います。翻訳で内容を理解した上で古代ギリシアの社会の特徴を学びます。		
授業方法（学習指導法）	英文翻訳の予習、翻訳文の完成のためのグループディスカッション、古代ギリシア社会の考察を行ないます。		
授業到達目標	西洋の古代ギリシアの歴史、社会、文化の特徴を説明できるようにする。英語による歴史叙述を日本語で伝達できるようにする。		
授業内容	S. Peach & A. Millard, The Greeks, Tulsa, 1990のイラスト世界史のシリーズ本を題材に使います。あらかじめ課題プリントを配布するので翻訳と下調べの予習をしてもらいます。予習の内容を講義時にグループディスカッションしたりクラスで発表してもらいます。5つの主題についてレポートを提出してもらいます。 第1回 ガイダンス 第2回 Social structure～翻訳の検討 第3回 社会階層のまとめ 第4回 Democracy in Athens～翻訳の検討1 第5回 Democracy in Athens～翻訳の検討2 第6回 アテネ民主政のまとめ1 第7回 アテネ民主政のまとめ2 第8回 Sculpture～翻訳の検討 第9回 ギリシア彫刻の特徴 第10回 The theatre～翻訳の検討 第11回 ギリシア劇の特徴1 第12回 ギリシア劇の特徴2 第13回 Learning～翻訳の検討 第14回 小テスト、学問のまとめ		

	第15回 古代ギリシア社会についてディスカッション
キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書：P. レベック『ギリシア文明―神話から都市国家へ』創元社。参考書：伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史』講談社，山本茂他『西洋の歴史〔古代・中世編〕』ミネルヴァ書房，N. スパイヴィ『ギリシア美術』岩波書店。
成績評価の方法・基準等	古代ギリシアに関する教養的知識の小テスト（40点），レポート（50点），授業中の発言や調べ物の発表（10点）
受講要件（履修条件）	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし，やむを得ず（正当な理由で）欠席する場合は，単元に応じた個別指導を行なう。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールⅡ科目-04 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587037701	科目番号	05870377
授業科目名	●教育と社会Ⅱ(身のまわりの科学)		
編集担当教員	長島 雅裕		
授業担当教員名(科目責任者)	長島 雅裕		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	長島 雅裕		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	masahiro@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部413		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	身の回りの現象の背後に隠されている自然の法則を理解する。また、その法則が、原子などのミクロの世界や、宇宙などの巨大な世界でも成り立っていることを理解し、現代の科学的な自然観を身につける。		
授業方法（学習指導法）	主として講義形式で行う。随時、少人数で議論し、考えをまとめ、発表する。		
授業到達目標	身の回りの現象について、科学的に考えられるようになる。		
授業内容	以下に示すのは例である。受講生との議論によって、取り上げるテーマは変更する可能性がある。		
	回	内容	
	1	はじめに：科学的なものの見方、現象と本質について	
	2	落下するということ	
	3	浮かぶということ	
	4	水・氷・水蒸気	
	5	光	
	6	身近な量子力学	
	7	携帯電話(1)：音	
	8	携帯電話(2)：電波	
	9	携帯電話(3)：コンピューター	
	10	身のまわりの放射線	
	11	おかしな科学(1)：血液型と性格	
	12	おかしな科学(2)：マイナスイオンと健康	

	13	おかしな科学(3)：水からの伝言
	14	おかしな科学(4)：いろいろ
	15	科学とはなんだろうか
	16	
キーワード	物理学、日常、現象、本質、科学的思考、批判的思考	
教科書・教材・参考書	特に指定しませんが、高校レベルの物理学を理解するための参考書として『新しい高校物理の教科書』山本明利・左巻健男(講談社ブルーバックス)を挙げておきます。	
成績評価の方法・基準等	授業への貢献20%、ミニレポート40%、最終レポート40%	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）	高校物理を理解しておくことが望ましい	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-04 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587038101	科目番号	05870381
授業科目名	●教育と社会II(芸術)		
編集担当教員	織田 芳人		
授業担当教員名(科目責任者)	織田 芳人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	織田 芳人		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	m-oda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部美術技術棟2階207番研究室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	m-oda@nagasaki-u.ac.jp（要予約：水曜日9:20～10:20）		
授業のねらい	色に関する基礎知識を習得し、構成・デザインにおける美しさ・楽しさという観点を踏まえて、紙という素材を利用した基礎的な造形表現の方法を習得することをねらいとする。		
授業方法（学習指導法）	資料提示によって学習すべき知識や造形作品の制作方法を理解した上で、実際の素材（トーンルカラー、方眼カラードフォルム）を使用して、知識の確認および制作を行う。		
授業到達目標	色に関する基礎的な説明ができ、構成・デザインにおける美しさ・楽しさという観点を踏まえた基礎的な造形表現ができる。		
授業内容	構成は、美術・デザインに共通する色や形の造形要素を掘り下げることによって、造形の原理を追求する分野である。デザインは、ものの使いやすさ、美しさ、楽しさを考えて生活に役立つ造形品をつくり出していく活動である。本授業では、色、平面構成、立体構成・デザインに関する知識と、それらを活かした基礎的な造形表現を学ぶ。		
	回	内容	
	1	デザインの話、授業の概略および必要な道具類の説明	
	2	色・補色残像の話、色相環の制作と提出	
	3	色の対比の話、トーンルカラーのトーン別分類	
	4	対比例の制作と提出	
	5	色の調和・配色の話、配色例の制作と提出	
	6	平面構成の話、「並べる」操作による平面構成の制作と提出	
	7	発想練習の話、「直線で切って滑らせる」操作による平面構成の制作と提出	
	8	「直線と円弧で切って滑らせる」操作による平面構成の制作と提出	
	9	立方体の展開図の話、立方体の変わった展開図の制作（1/2）	
	10	立方体の変わった展開図の制作（2/2）と提出	

	11 飛び出すカードの話、飛び出すカードの制作（1/2）
	12 飛び出すカードの制作（2/2）と提出
	13 書体の話、アルファベットの制作と提出
	14 和文書体の制作と提出
	15 筆記小試験、デザイン史の話、レポート提出
	16
キーワード	
教科書・教材・参考書	トータルカラー（配色体系に基づく色紙）（配布します） 方眼カラードフォルム（片面方眼付の色工作紙）（配布します）
成績評価の方法・基準等	（1）全課題（造形作品等）提出40点 課題条件を満たしているか、制作作業がていねいか等を評価します。 （2）全課題についてのレポート提出30点 各課題に関するコメントを記したもの。 （3）筆記小試験20点 （4）授業への参加態度10点 授業へ積極的に参加したかを評価します。 以上の総合点60点以上を合格とします。
受講要件（履修条件）	実技を伴うので、第1回に、必要な道具類を説明します。第2回から、必要な道具類を各自用意して受講してください。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-04 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587038501	科目番号	05870385
授業科目名	●教育と社会II(環境と社会)		
編集担当教員	星野 由雅		
授業担当教員名(科目責任者)	星野 由雅		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	星野 由雅		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hoshino@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部4階 4 1 5 研究室		
担当教員TEL	095-819-2332		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように環境や人間に影響を与え、社会が、それをどのように扱って行けば良いのかを各種の規制法等を通して考える。また、ドイツの環境と社会との関わりを多角的に調べ、日本の環境と社会との関わりのあるべき姿を探る。		
授業方法（学習指導法）	受講者自らが課題を設定し、その課題を解決するために、教科書，配布資料，参考書等で学習するとともに、課題と課題解決のために学習した内容をレポートとし、発表する。また、学習した内容に応じてプレゼンテーションを学生自らが行う。授業中に学習内容の定着度を図る目的で小テストを数回課す。		
授業到達目標	環境と社会と関わりについて、法的な知識と理解度を高めると共に、現代社会の中で環境要因が具体的にどのように環境や人間に影響を与え、社会がそれをどのように扱って行けば良いのかを多角的に調べ、環境と社会との関わりのあるべき姿を述べることができるようになる。		
	回	内容	
	1	オリエンテーションとイントロダクション。受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題（事項と内容）を指示する。【課題：個人レポート】	
	2	班に分かれて、各受講者ごとに挙げた環境問題を選定した理由を班員に説明する。次に、挙げた環境問題の内容を理解するために必要な学習事項（法規や関連事項）を挙げる課題を指示する。受講者から質問があれば、学習事項の例とその内容について説明する。【課題：個人レポート】	
	3	班に分かれて、各受講者ごとに学習事項（法規や関連事項）を発表し、班員全員が必須と考える学習事項を選定する。班ごとに必須となった学習事項を理由と共に発表する。クラス全体での必須学習事項を受講者間の議論により選定する。必須学習事項について各受講者が学習してくる。【課題：個人レポート】	
	4	班ごとに必須学習事項について学習してきた内容を班内で各受講者が発表を行う。班内でテーマを1つに選定し、その内容についてクラス全体にわかるように説明するための	

授業内容		準備を行う。
	5	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（1） 教員による補足説明。
	6	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（2） 教員による補足説明。
	7	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（3） 教員による補足説明。
	8	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（4） 教員による補足説明。
	9	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（5） 教員による補足説明。
	10	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（6） 教員による補足説明。
	11	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（7） 教員による補足説明。
	12	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 小テストの解説。 各受講生が課題とした法規、環境と社会との関わりを示した具体例の説明レポートの作成を指示。【課題：個人レポート】
	13	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	14	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	15	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。
	16	定期試験
キーワード	環境基本法、環境基準、化学物質のリスク、ドイツの環境事情、環境教育	
教科書・教材・参考書	参考書1：谷村賢治・齋藤 寛編著「環境知を育む」税務経理協会 参考書2：及川 紀久雄・北野 大共著「人間・環境・安全ーくらしの安全科学」共立出版	
成績評価の方法・基準等	授業中の小テスト、課題レポート、発表、定期考査を行って評価する。評価割合は、定期考査50％、授業中の小テスト20％、課題レポート20％、発表10％とし、総合点で評価する。合格基準は、総合点で60％以上とする。	
受講要件（履修条件）	定員を80名までとします。	
本科目の位置づけ	「環境と社会」との関わりは、教育者として必須の教養項目である。学校教育の中では、教科内だけでなく学校生活全般を通して教授することが求められる。	
学習・教育目標	環境と社会との関わりについて受講者が備えておくべき学習事項を自ら設定することで、主体的な学習姿勢を育成することと知識獲得を目標とする。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

